



Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4

リリースノートおよび既知の問題

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 のリリースノートおよび既知の問題

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 リリースノートおよび既知の問題

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 のリリースノートおよび既知の問題

Robert Kratky
rkratky@redhat.com

Fabrice Flore-Thébault
ffloreth@redhat.com

Jana Vrbkova
jvrbkova@redhat.com

Max Leonov
mleonov@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2023 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 の既知の問題および注目すべき機能に関する情報

目次

| | |
|---|----|
| 多様性を受け入れるオープンソースの強化 | 3 |
| 第1章 RED HAT OPENSIFT DEV SPACES について | 4 |
| 1.1. サポート対象のプラットフォーム | 4 |
| 1.2. サポートポリシー | 4 |
| 1.3. ECLIPSE CHE と RED HAT OPENSIFT DEV SPACE の相違点 | 4 |
| 第2章 新機能および機能拡張 | 6 |
| 2.1. FAST チャネルからの OPENSIFT DEV SPACES のデプロイ | 6 |
| 2.2. より多くの DEVFILE コンポーネントのサポート | 6 |
| 2.3. ワークスペースの実行に使用するサービスアカウントの設定 | 6 |
| 2.4. 推奨拡張機能の自動インストール | 6 |
| 2.5. サンプルプロジェクトの更新 | 7 |
| 2.6. 更新された UNIVERSAL DEVELOPER IMAGE | 7 |
| 2.7. ユーザーダッシュボードに追加された新しい DEVWORKSPACE 仕様 タブ | 8 |
| 第3章 バグ修正 | 9 |
| 3.1. CPU またはメモリーが不足しているためにワークスペースを起動できなかった場合のエラーメッセージの遅延を修正 | 9 |
| 3.2. 予期しないセッションの有効期限切れによりランダムなログアウトが発生する問題を修正 | 9 |
| 3.3. 従来の OLM CATALOGSOURCE POD のクラッシュを修正 | 9 |
| 第4章 テクノロジープレビュー | 10 |
| 第5章 非推奨の機能 | 11 |
| 5.1. ワークスペースでの ECLIPSE THEIA エディターの非推奨 | 11 |
| 第6章 削除された機能 | 12 |
| 第7章 既知の問題 | 13 |
| 第8章 よくある質問 | 14 |

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージ](#) をご覧ください。

第1章 RED HAT OPENSIFT DEV SPACES について

Red Hat OpenShift Dev Spaces は、Web ベースの統合開発環境 (IDE) です。OpenShift Dev Spaces は OpenShift で実行され、コンテナベースの開発に適しています。

OpenShift Dev Spaces は以下を提供します。

- エンタープライズレベルのクラウド開発者ワークスペースサーバー
- ブラウザーベースの IDE
- 一般的なプログラミング言語、フレームワーク、および Red Hat テクノロジー用に使用できる開発者スタック

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 は Eclipse Che 7.58 をベースにしています。

1.1. サポート対象のプラットフォーム

OpenShift Dev Spaces は、以下の CPU アーキテクチャー上にある OpenShift 4.10 および 4.11 で実行されます。

- AMD64 および Intel 64 (**x86_64**)
- IBM Power (**ppc64le**) および IBM Z (**s390x**)

関連情報

- [OpenShift のドキュメント](#)
- [Red Hat OpenShift Dev Spaces 管理ガイド](#)

1.2. サポートポリシー

Red Hat OpenShift Dev Spaces 3.4 では、Red Hat は製品のデプロイメント、設定、および使用をサポートします。

関連情報

- [OpenShift Dev Spaces のライフサイクルおよびサポートポリシー](#)

1.3. ECLIPSE CHE と RED HAT OPENSIFT DEV SPACE の相違点

OpenShift Dev Spaces と Eclipse Che の主な相違点は次のとおりです。

- OpenShift Dev Spaces は、更新に時間がかかる Alpine ディストリビューションと比較して、最新のセキュリティ修正が含まれるように RHEL8 に構築されます。
- OpenShift Dev Spaces は、ユーザーログインと管理に OpenShift OAuth を使用します。
- OpenShift Dev Spaces は、Che と比較して、サポートされるプラグインのサブセットが小さくなります。
- OpenShift Dev Spaces は、EAP や Fuse などの他の Red Hat テクノロジーを操作する devfile を提供します。

- OpenShift Dev Spaces は OpenShift Container Platform、OpenShift Dedicated、および Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA) でサポートされます。Eclipse Che は他の Kubernetes クラスターで実行できます。

Red Hat は、ライセンス、パッケージング、およびサポートを提供しています。そのため、OpenShift Dev Spaces は、アップストリームの Eclipse Che プロジェクトよりも安定した製品とみなされます。

第2章 新機能および機能拡張

2.1. FAST チャンネルからの OPENSIFT DEV SPACES のデプロイ

今回の更新により、コマンド `dsc server:deploy --olm-channel=fast` を実行して、デフォルトの `stable` チャンネルではなく `fast` チャンネルから OpenShift Dev Spaces をデプロイできます。



警告

Red Hat のサポートは、`fast` チャンネルからデプロイされた OpenShift Dev Spaces インスタンスには適用されません。`fast` チャンネルは、将来サポートされるリリースのリリース候補と CI バージョンをテストするためのものです。`fast` チャンネルから `stable` チャンネルに切り替えるには、`fast` サブスクリプションを削除し、`stable` チャンネルから新しいサブスクリプションを作成します。

関連情報

- [CRW-3353](#)

2.2. より多くの DEVFILE コンポーネントのサポート

今回の更新により、OpenShift Dev Spaces は、タイプ `kubernetes` および `openshift` の devfile コンポーネントをサポートします。これらは、Kubernetes および OpenShift マニフェストを参照し、それらをワークスペースの一部として含めます。詳細については、[devfile v2 仕様](#) を参照してください。

関連情報

- [CRW-3364](#)

2.3. ワークスペースの実行に使用するサービスアカウントの設定

今回の更新により、管理者は CheCluster カスタムリソースに `.spec.devEnvironments.serviceAccount` フィールドを追加することで、すべてのワークスペース Pod に使用されるサービスアカウントを設定できるようになりました。

関連情報

- [CRW-3470](#)

2.4. 推奨拡張機能の自動インストール

今回の更新により、ワークスペースの起動時に `.vscode/extensions.json` ファイルから推奨される拡張機能が自動的にインストールされます。

関連情報

- [CRW-3586](#)

2.5. サンプルプロジェクトの更新

OpenShift Dev Spaces 3.4 では、ダッシュボードで提供されるサンプルプロジェクトが次のように変更されました。

- Flake8 を使用した Python のテストと linting は、そのまま自動的に機能します。
- .NET サンプルは、.NET 6 および 7 ランタイムにアクセスできます。.NET 3.1 は Universal Developer Image (UDI) から削除されました。
- CakePHP サンプルは、より単純な Hello、WorldCLI PHP サンプルに置き換えられました。Xdebug が含まれるようになりました。
- Gradle サンプルは削除されました。

関連情報

- [CRW-3590](#)

2.6. 更新された UNIVERSAL DEVELOPER IMAGE

OpenShift Dev Spaces 3.4 では、Universal Developer Image (UDI) は以下のように更新されます。

- Python リンティングは、UI とコマンドラインで Pylint の代わりに Flake8 を使用するようになりました。
- Dotnet 3.1 は削除されました。
- PHP 開発の場合: Composer と HTTPd が削除され、Xdebug が含まれるようになりました。
- Gradle が削除されました。
- Maven は、最新の RPM バージョン 3.6.2-7 に更新されます。
- e2fsprogs が最新の RPM バージョン 1.45.6 に更新されます。
- [Go 言語サーバー gopls](#) がバージョン 0.10.1 にアップグレードされました。
- odo が 3.4.0 に更新されました

ヒント

他のツールやランタイムを含めるために、管理者は UDI イメージを拡張、または組織とユーザーのニーズに適したツールを含むものに置き換えることができます。ユーザーが自分の devfile でカスタムイメージを使用できるように、**CheCluster** カスタムリソースで置換イメージを参照できます。これにより、必要なツールとランタイムが永続化され、ワークスペースを起動するたびにインストールする必要がなくなります。

ユーザーは、独自の UDI イメージを作成して、devfile から参照することもできます。これには、組織のクラスターからアクセスできるレジストリーにイメージを公開する必要があります。ただし、このアプローチは集中化や標準化が進んでいないため、拡張性やパフォーマンスが低下する可能性があります。

関連情報

- [CRW-3643](#)

2.7. ユーザーダッシュボードに追加された新しい DEVWORKSPACE 仕様タブ

今回の更新により、Workspaces メニューの DevWorkspace タブを使用して、ワークスペースを定義する DevWorkspace オブジェクトの仕様を表示できるようになりました。

関連情報

- [CRW-3860](#)

第3章 バグ修正

3.1. CPU またはメモリーが不足しているためにワークスペースを起動できなかった場合のエラーメッセージの遅延を修正

この更新の前は、使用可能なクラスターノードの CPU またはメモリーが不足しているためにワークスペースが開始されなかった場合、ユーザーへの通知に UI の遅延がありました。ダッシュボードの **Progress** タブは、ワークスペースの起動がタイムアウトになるまで **Waiting for workspace to start** のままになり、その後エラーメッセージ **Failed to open the workspace** が表示されました。今回の更新により、Dev Workspace Operator は、スケジュール不可能な状態を検出した場合にワークスペースの起動を中止し、すぐに次のエラーメッセージを表示します: **Failed to open the workspace: Pod is unschedulable: <reasons_and_statuses>**。

関連情報

- [CRW-3474](#)

3.2. 予期しないセッションの有効期限切れによりランダムなログアウトが発生する問題を修正

この更新の前は、セッションの有効期限が切れたため、開発者が予期せずログアウトする可能性がありました。今回の更新で、この問題は解決されています。

関連情報

- [CRW-3846](#)

3.3. 従来の OLM CATALOGSOURCE POD のクラッシュを修正

この更新の前に、Operator Lifecycle Manager (OLM) によって使用されるレガシー CatalogSource オブジェクトは、OpenShift 4.12 でクラッシュ状態になる可能性がありました。この問題は、コンテナビルドが有効になっている rh-os-devspaces 3.3 以下のクラスターに影響を与えました。今回の更新により、問題が修正されました。

関連情報

- [CRW-3894](#)

第4章 テクノロジープレビュー

テクノロジープレビュー機能は、近々発表予定の製品イノベーションをリリースに先駆けてご提供することにより、お客様は機能性をテストし、開発プロセス中にフィードバックをお寄せいただくことができます。ただし、これらの機能は Red Hat サブスクリプションレベルアグリーメントでは完全にサポートされておらず、機能的に完全でない可能性があり、実稼働環境での使用を目的としていません。Red Hat ではテクノロジープレビュー機能を今後も繰り返し使用することで一般提供に移行できると考えていることから、お客様がこの機能を使用する際に発生する問題の解決に取り組めます。[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#)を参照してください。

なし。

第5章 非推奨の機能

5.1. ワークスペースでの ECLIPSE THEIA エディターの非推奨

OpenShift Dev Spaces 3.4 では、ワークスペースでの Eclipse Theia エディターの使用は非推奨になりました。Red Hat は、現在のリリースライフサイクル中に、限定的なバグ修正と OpenShift Dev Spaces での Eclipse Theia のサポートを提供します。Eclipse Theia は、OpenShift Dev Spaces の拡張機能を利用できなくなり、以降のリリースで OpenShift Dev Spaces から削除されます。



注記

[Microsoft Visual Studio Code - オープンソース](#) は、エアギャップをサポートするデフォルトのエディターです。

関連情報

- [CRW-3405](#)

第6章 削除された機能

なし。

第7章 既知の問題

なし。

第8章 よくある質問

OpenShift Dev Spaces から OpenShift クラスターにアプリケーションをデプロイすることはできますか？

有効。ユーザーは **oc login** を使用して実行中のワークスペースから OpenShift クラスターにログインする必要があります。

最適なパフォーマンスを得るには、OpenShift Dev Spaces で使用される永続ボリュームに使用する推奨ストレージは何ですか？

ブロックストレージを使用します。

同じクラスターに複数の OpenShift Dev Spaces インスタンスをデプロイできますか？

推奨されません。この機能は、今後のリリースで削除される可能性があります。

OpenShift Dev Spaces をオフライン (つまりインターネットから切断した状態で) でインストールすることは可能ですか？

有効。OpenShift の [制限された環境での Red Hat OpenShift Dev Spaces のインストール](#) を参照してください。

OpenShift Dev Spaces でデフォルト以外の証明書を使用できますか？

はい、自己署名証明書または公開証明書を使用できます。 [信頼できない TLS 証明書のインポート](#) を参照してください。

複数のワークスペースを同時に実行できますか？

有効。 [ユーザーが複数のワークスペースを同時に実行できるようにする](#) を参照してください。

IBM Power Systems に実装された特定の変更は何ですか？

Pod を実行するのに十分な RAM を割り当てるために、一部のプラグインのメモリー制限が引き上げられました。

表.8.1 IBM Power System と他のアーキテクチャー間のメモリー制限の相違点の例

| プラグイン | IBM Power System | その他のアーキテクチャー |
|-----------------|------------------|--------------|
| Che-Theia エディター | 2G | 512M |
| OpenShift コネクター | 2.5G | 1.5G |